

みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年7月19日(金) (19時00分～20時30分)
開催場所 池田校区公民館(池田校区)
参加者数 市民…18人
市職員…市長他14人

総計33名

会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

意見交換内容

【市民】

・生ごみは焼却炉で燃やすだけでなく、土に還元する。個人個人がコンポスト等でたい肥化して、生ごみの減量化を図っていくやり方に仕組みを変えていってはどうか。多くの自治体が行っているように、ごみ処理費用を抑え市の財源の恒久的な節約にできればと思う。先日耳にした話だが、新西方では民生員やEMグループが独居老人宅を回り生ごみを回収して、たい肥化するという試みが行なわれようとしているようです。老人の見回りにもなり、素晴らしい取り組みだと思う。

<市長>

・ごみ問題については、市民が共通の課題という意識を持って解決しなければならないと思っている。生ごみを処理するということだけでなく、生ごみを利用する循環型社会ということも視野に入れて取り組みたい。

<市民生活部長>

・市では、ごみ処理費用の削減や施設の延命化を図るために市民のご協力をいただきながら、ごみの減量、資源化を推進している。生ごみについては、燃えるごみ量の20%を占めている状況で、その70%以上が水分となっている。生ごみの排出を減らすことで、ごみ量の削減が確実にできると考えている。このことから、生ごみ処理機器購入費の補助について平成25・26年度に限り、これまでよりも補助金を拡充するとともに、事業所用生ごみ処理機器も対象とするなど生ごみ減量のための施策を実施している。補助制度等については広報誌への掲載や出前講座を実施して市民への普及啓発を図っている。個人で購入する機器については、平成25年度では購入費用の50%、5万円を上限に補助し、平成26年度は購入費用の40%、上限が4万5千円となる。また、事業所用の大きな生ごみ処理機器については、平成25年度では購入費用の50%、上限が250万円、平成26年度は購入費用の40%、上限が200万円となっている。新西方地区における独居高齢者等への声かけを兼ねた生ごみの有効利用促進の取り組みやホテルと農業法人等がタイアップをして生ごみのたい肥化に取り組んでいる事例もあり、今後、他の先進地の事例も参考にして、ごみの更なる減量化に取り組みたい。

【市民】

・馬頭観音の里道に草がたいへん生えており、ひどい状態である。舗装とまでは言わないが、バラスを敷いてもらうことはできないか。

・池田湖の市の売店のところも高齢の方がたくさん来ている。ゆっくり池田湖を見てもらえるようにベンチを設置して欲しい。

・市が造成した土地を販売したところがあるが、空き地のところの草が生えているので、市のほう

から所有者に対して草払いをするなど管理の徹底について公文を出してもらいたい。

<農政部長>

・県道から馬頭観音への入口付近については、里道では無く、個人の所有地になっていることから農道的な整備は難しいところである。ただ、馬頭観音については観光資源にもなっている。市民協働課のほうの共生協働がらみの補助事業もあるので、地域の方も参加いただいて今後の対応を考えていければと思う。

<市長>

・馬頭観音のところは、1月は多くの人出がある。市道・里道ということだけでなく、何とか対応したい。

<産業振興部長>

・池田湖の売店前のところにベンチがいくつかあれば、池田湖をゆっくり眺めたり、滞在する時間が長くなるのではと考えている。必要性を感じており、今後、鹿児島県の魅力ある観光づくり事業の活用を含めベンチの整備について検討したい。

<市民生活部長>

・雑草に関する苦情に関しては環境政策課が主に対応している。繁茂している雑草または放置されている廃棄物については、指宿市環境保全条例に基づき土地所有者が良好な環境の保全に努めなければならないと義務付けており、土地所有者に対し文書または電話での指導を行っているところである。また、市外の方など所有者自身が管理できない場合もあることから、シルバー人材センターや市内の業者を紹介するなどしている。お話のあった、現場については確認もしているので、土地所有者に指導していきたい。

【市民】

・自分の孫が今年池田小学校に入った。孫は柳田小学校に行きたいと言っていたが、そういう訳にも行かず池田小学校に入学した。孫に何故かと聞いたところ、柳田小学校は生徒数が多いからということであった。何十年前前から池田校区に市営住宅を造ってほしいという看板もあるが、厳しい財政の中では無理だろうと思っている。空き家対策の話もあったが、もう話はおなくなった。これから先、池田小学校の児童数はどのくらい減少するのか、後はどうするのか、合併するのか、これからどう考えているのか説明して欲しい。

<教育長>

・池田小は昭和47年頃生徒が250人ぐらいいた。平成6年頃100人ぐらいになったが、その時でもバレーボールは全国大会に行っているように活発なところであった。現在36人になっており、5・6年経つと30人ぐらいになる。今和泉小は現在102人いる。これが5・6年経つと80人ぐらいになる。西指宿中も6年経つと50人ぐらいになる。おそらく、子供たちも多くの子供たちと過ごしたいと思っているのではないか。今後、保護者の方、地域の方々がいろいろと話し合いを持っていただきたい。できるだけ子供たちはたくさんいるところで学ばした方がいいのではと教育委員会としては思っている。

<市長>

・池田校区の出身の方で、自分の子供が好きなスポーツがやりたい、たくさんの友達のいるところで勉強がやりたい、という子供の考えを大切に丹波・柳田校区に住んでいるという話をお聞きしている。これは池田校区だけでなく、山川・開聞でもお聞きする話である。いろいろな方々が池田校区をどうしていくのかということ真剣に、今、考える時だと思っている。親はどう考えるのか、地域はどう考えるのか、皆さんからいろいろな知恵をいただき考えていきたい。

【市民】

・人数が多いから良い教育ができるということではない、少ない人数でも良い教育ができる方法も考えてもらいたい。大規模校の良さは人数が多いことのように見えるが、先生方は案外見えないことが多い。少ないと本当に手取り足取りして子供たちの個性を伸ばしてくれる。ここも大事である。
・小学校の生徒が減るということは、池田の人口が減るということである。池田小学校は小さいがほかの学校に負けない良い学校である。自分の子供に3歳の孫がいて、子供が池田に帰ってきたいということで家を建てるための土地を探しているが、畑灌の関係などでなかなか場所が無い。池田

に住む場所があれば若い人は池田に住むと思う。そういうところも何か考えていただきたい。

<教育長>

・確かに少ない生徒数の場合、目が行き届いていろいろと指導ができるという、先生と子供の間があるが、子供同士の関係というものも考えていかないといけないと思う。学校の中の学習だけでなく、いろいろな活動で人間も育っていく、たくさんの中で揉まれることで社会性も広がっていくということもあるのではないかと心配するのは、子供を大きな学校で学ばせたいということで、家族ごと地域から出て行ってしまおうということがある。そうすると子供も家族も地域に残らなくなる。今の地域に住んだまま大きい学校にも行けるということであれば、子供も家族もそこに残ることとなる。そういう考え方もあるので、子供の成長のためにどうあればいいかということで保護者や地域でも考えていただきたい。

<市長>

・少人数で素晴らしい点もある。南大隅町の佐多や南さつま市の笠沙・坊津の状況も聞いているが、やはり皆さんがどのように望むのか、何が池田の子供たちのためにいいのかということを考えていきたい。

【市民】

・下門のサルの子踊りは15人必要だが、今、3人しかいないためできない。以前は東京などいろいろなところに踊りに行き、現在もいろいろなところから出演依頼が来ているが対応できない状況である。池田小の校長先生も協力をいただいているが、なかなか運営をしてくれる人がいない。市の方などが中に入っていただいて音頭を取っていただけないか。また、池田小全体で対応できないか。

<池田小校長>

・サルの子踊りは、下門猿の子踊り保存会ということで集落の範囲での活動となっており、学校が一つの集落の範囲での踊りを引き受けて進めていくのはなかなか難しい面がある。校区全体で館長さん方の方でうまく話を詰めていただいて、例えば、池田の猿の子踊りということでも持っていただくとうちの学校のほうでも対応しやすいと考えている。

<市長>

・サルの子踊りは市の内外から高く評価されている郷土芸能であり、指宿市にとっても貴重な伝統芸能である。社会教育課のほうで郷土芸能の支援もしているが、今後のあり方について話し合いの場を持ちたい。

【市民】

・池田湖の市の売店のところは観光客も多い、イベントなど何か取り組みができないか。
・聞くとところによると、池田湖の遊覧ボート発着所のところが県の事業による護岸の改修工事が予定をされているが、市とボート業者との協議ができていないため事業ができないとのことである。どのようにしているか。

<産業振興部長>

・池田湖周辺については、指宿市の主要観光地の一つということで様々な整備を進めてきている。また、池田湖パラダイス前の花畑の植栽には特に力を入れており、菜の花やコスモスなど四季折々の草花を植栽し多くの観光客に喜んでいただいている。花畑の西側にあるイッシー公園には桜の木を植栽するとともにアスレチック器具や遊具を備えていることから、多くの家族連れに利用いただいている。加えて、県の魅力ある観光づくり事業により、平成23年から平成24年にかけて小浜に親水性の遊歩道や駐車場が整備されています。それから、池田湖周辺のイベントにつきましては池田湖水フェスティバルがこれまで10回にわたり実施されており、本年は動植物の観察会やクリーンアップ活動のほか、シーカヤックやバナナボートなどが開催され、さらに、市内各所で好評を得ている指宿マルシェのような市場の開催が計画されている。

・池田湖の環境整備については以前から県と協議をしており、売店前のトイレの整備やイッシー公園の看板の整備などが進められているが、遊覧ボート発着所の護岸改修については現在のところ具体的に県事業で行うという計画は進んでいない。

【市民】

・市ではマイレージ制度が導入され、健康増進の取り組みが行なわれている。レイクグリーンパークのグラウンドゴルフはたくさんの方が利用しているが、日陰が全くないので屋根つきの休憩所を作っていただきたい。

<農政部長>

・レイクグリーンパークは平成 13 年頃に整備されているが、池田湖畔に造るということで、できるだけ眺望を阻害しないというコンセプトで整備されたため、エプロンハウスのほうにトイレや休憩所が造られた経緯がある。市内外の方がたくさん利用している実態があることから日陰を作るなどの対策が必要であり、木製で藤棚などを作ってはと考えている。現場のほうで館長さんを含めて協議したい。

【市民】

・幸屋の交差点が4差路になっている。最近交通量も増えており、優先道路が分かりにくいいため非常に危ない道路の状況である。西指宿中の通学路にもなっており、できるだけ早く信号機を設置して欲しい。

<総務部長>

・広域農道から下ってくると、池田からの車が見にくい状況で大変危ないと認識している。議会での質問もあつたり、西指宿中のPTAの方も心配をされて警察署にお願いをされており、それに伴って、市からも信号機を設置してもらうように正式に要請を行ったところである。まだ、信号機の設定に至っていないので、今後も少しでも早く設置されるように努力していきたい。

<市長>

・ケガがあつてからではどうしようもないので、学校・地域とも協力して頑張りたい。

【市民】

・石嶺の清美岳山頂に行く途中の日照仏神社にお参りする方や、清美岳山頂に登る方が増えている。日照仏神社の賽銭箱にはたくさんの賽銭が入っているが、神社の由来などを記した看板を設置していただけないか。

<産業振興部長>

・清美岳は「鹿児島山」という本の中で紹介されて以来、登山者が増えており、地元の皆様により登山道周辺の清掃を行うなどしていただき感謝している。また、清美岳は初心者向けの登山に適していることや山頂から見える池田湖周辺の眺望が絶景であることから、新たな観光資源としても考えられるところである。日照仏神社の看板設置については、市内に点在している神社も数多くあり、市の指定文化財に指定しているものについては社会教育課のほうで整備を行っている状況にあり、市のほうで看板を設置することについては難しいと考えている。しかし、地域活性化・地域振興という観点から地域の皆さんが主体となって、市の提案公募事業などを活用していただくことは可能と思いますので、神社の由来等については社会教育課のほうに相談をいただければと思う。

【市民】

・指宿スカイライン入口の横断歩道の白線が薄くなり見にくくなっているので、市のほうからでも関係部局に働き掛けて欲しい。

【市民】

・ふるさと納税の状況について教えて欲しい。

<渡瀬副市長>

・ふるさと納税には、市に直接する方法と県を通じてする方法の2つがある。市に直接納税する方の平成 23 年度の実績としては、53 人の方から約 648 万円の納税をいただいた。平成 24 年度は 58 人で約 687 万円となっている。